

11月30日
開会

12月定例市議会

職員給与の削減条例が議会冒頭に提案

職員給与の削減は地域経済への深刻な打撃と 民間給与のさらなる低下につながる悪循環

議会冒頭には、職員や議員の給与を引き下げる条例案が提案されます。いずれも、年末手当からの削減で、6000人以上の職員に影響し、総額で5億6千万円の影響額となります。

日本共産党は、議員や市長、企業管理者等の給与削減については賛成の立場です。しかし、一般職員の給与を削減することには、賛

同できません。

それは、職員給与削減により、消費の低迷にさらなる拍車をかけ、商店街・飲食店をはじめ地域経済に深刻な打撃を与えること、さらには、公務員給与に準じて給与を定めている企業も少なくなく、公務員給与が下がったことを理由にさらに民間給与も低下するなど悪循環が生まれるからです。

【職員給与の削減における影響額】

		(1人あたり)
給与…6248人	3636万円	5820円
期末勤勉手当…6352人	5億1627万円	81277円
計	5億5263万円	87097円
その他 特別職（市長、議員など）	740万円	

「民間」と「公務員」が対立しても何も解決しません

民間給与が10数年にわたって減少している国は先進諸国の中でも日本だけです。それは、輸出大企業だのみの経済政策のもとで内需拡大型の経済対策が弱く、また働くルールが壊されて派遣労働など不安定雇用が増加したためです。

増え続ける大企業の貯め込み金の一部を労働者に還元し、労働者給与の底上げをはかることこそが暮らしを豊かにし、経済の回復につながります。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまだか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 734

2010年11月28日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/

*12月議会が始まります

11月30日・開会日（午前10時より）に「職員給与の削減問題」や「政令市実現」「TPP問題」の意見書について、質疑や討論を行います。

* 市役所議会棟5階本会議場で傍聴できます！

……上野みえ子議員の一般質問……

12月1日(水) 午後2時より

市役所・議会棟5階本会議場にて傍聴できます

【内容】

国民健康保険・介護保険・保育・子ども医療費

住宅リフォーム助成制度・農業問題

中心市街地活性化・まちづくり・政令市移行 など

*インターネットでの同時中継もあります。



可能性

【控室から】

上野 みえ子



盲目の画家・エム ナマエさんのトークとコンサートがありました。40年間、活動が続けられてきたそうです。失明から24年、画家として光を失われたことは、壮絶であったと思います。でも、たくさんの方々に支えられ、苦難を乗り越え、たいへん明るく生きていらつしゃいます。そんなエムさんの「いつか誰でも」「やっぱの今が いちばんいい」という文章を朗読させていただきました。「思い出がいのも、記憶が鮮やかなのも、僕が生きてきたから。乗り越えてきたから」生きていれば、・・・と、生きる元気の湧いてくるような言葉です。

「なぜ目が見えなくて絵が描けるんですか？って言われますが、絵を描くことを体が憶えているんです」短い時間でしたが、生きているというところは、「可能性」なのだ、元氣や勇氣をいただきました。

厳しい毎日でも、生きていけば必ず切り開いていきます。可能性ががあります。と語りかけたくなります。

「住民が主人公」、政治は変えられます。すべての人が幸せに暮らせる社会にするため、「一緒にしましょう。」

プラスチック製容器包装の分別スタート 10月度は収集389トン

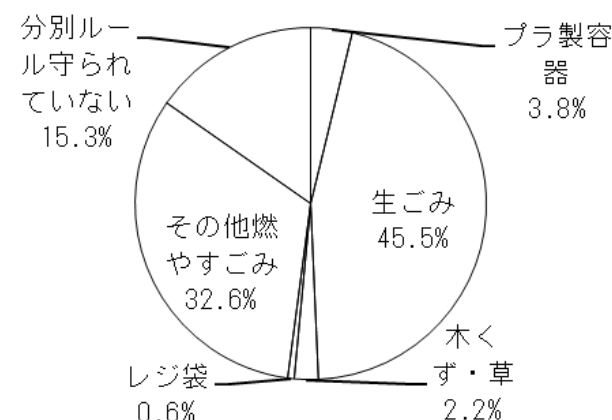
10月からスタートした「プラスチック製容器包装」の分別収集、10月分の収集量は、389トン、残渣を取り除き、254トンが新日本製鐵株式会社に引き取られ、リサイクルに回されました。日本容器包装リサイクル協会による品質結果は、最も優秀なA判定で、まずまずのスタートとなりました。

「燃やすごみ」中のプラごみの半数がリサイクルへ

焼却されていた「燃やすごみ」の組成分析調査では、昨年度8.7%(11月6日調査)から、分別実施後は3.8%(11月5日調査)に半減しています。市の分別目標は、1日30トンですが、現在22.9トン(10月平均)です。市は、焼却を減らすことで、CO₂削減を12000トン見込んでいます。

家庭での分別徹底と共に、製造者・スーパーなど事業者が、大元からプラゴミを出さない努力が求められます。

家庭ごみ『燃やすごみ』分析調査結果



プラごみ・紙など分別し、資源化できるものが、15.2%あります。

プラスチックごみ・リサイクルの問題点

- ①発熱量が高いため燃えると高温になり、清掃工場の焼却炉を傷める。
- ②塩化ビニール製品を燃やすと地球温暖化の原因であるCO₂が発生し、人体への有害物質であるダイオキシンや重金属類などの有害物質が発生する。
- ③腐らないため、山や海、川などに落ちたり、捨てられたりして、散乱ごみになると、海や川にすむ魚や鳥などの生物にも影響を与える。
- ④リサイクルの要する経費が企業負担と比べて、自治体の分別、運搬、処理経費などの負担が重い。大元のプラゴミ発生を回避し、製造、使用、販売する事業者に対して、廃棄の段階まで責任を持たせる「拡大生産者責任」のしくみをキチンとつくる必要がある。

09年度10月～6ヶ月間で 「家庭ごみ有料化」約7億円の市民負担増

昨年10月からはじまった「家庭ごみ収集有料化」の市民負担増が半年で約7億円にのぼります。「ごみ減量」を目的と言われていた「有料化」ですが、市の昨年10月から、「燃やすごみ」の1回当たりの収集量は、対前年比12.8%減で、有料化後の6ヶ月間13.3%減に比べて0.5%増えています。

他都市でも、数年後はリバウンドしており、「有料化」による「痛み押付け」では、ごみ減量は期待できません。

「有料化」の使い道は大半が「一般財源」の肩代わり

製造費などの有料化経費が35%を占めます。自治会へのごみステーション管理費助成や資源物集団回収助成金の引上げなど地域に還元し、ごみ減量活動を支援する事業もありますが、そのほとんどがこれまで一般財源で行われていた事業に充てられています。「プラゴミ」の分別・資源化が確実なごみ減量と結びついているように、行政の「ゴミ減量」のしくみづくりと事業者・市民との共同の取り組みこそ必要です。

家庭ごみ有料化関係経費内訳

新規・拡充	細事業名	09年度決算(千円)
新規	ごみ有料化関係経費(袋製造など)	255,014
新規	乳幼児等世帯支援経費	31,570
新規	プラスチック製容器包装リサイクル推進経費	205
新規	生ごみ分別収集リサイクル推進経費	1,213
新規	セメント原料化リサイクル推進経費	16,718
新規	ごみ発生抑制対策経費	420
新規	電話相談「ごみ110番」設置経費	3,376
新規	資源物拠点回収推進経費	7,446
新規	ふれあい収集経費	0
拡充	収集カレンダー作成経費	2,176
拡充	環境学習経費	4,169
拡充	減量啓発経費	53,584
拡充	リサイクル推進経費	24,600
拡充	きれいな街づくり推進経費	34,729
拡充	産業廃棄物適正処理推進経費	800
拡充	環境にやさしい店推進経費	565
	資源物再資源化推進経費	285,295
	合計	721,880